

LIBRARY

鳥取大学附属図書館報

139

Mar. / 2023



INDEX

- 01 **巻頭言**
私と大学図書館 中島 廣光
- 03 **私の選んだこの一冊**
『世界で最初に飢えるのは日本
食の安全保障をどう守るか』 藤巻 晴行
『ブータン、これでいいのだ』 井上 順子
- 05 特集：本の学校文化祭 参加レポート
- 08 トピックス
・鳥取大学みらい基金の助成により
個人ブースを設置
・「全国大学ビブリオバトル2022
地区予選@鳥大」を開催
・電子ジャーナル選定のための
アンケートを実施

巻頭言

私と大学図書館

学長

なかじま ひろみつ
中島 廣光



研究は出会いの積み重ね。それが人生を面白くする。それを支えているのが大学図書館。

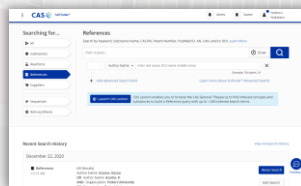
「微生物学」の講義を担当する世界的に著名なT先生は、吃音で、何を言っているのかよく分からず、また、板書の字が金釘文字で読めないのが有名であった。私も学部3年生のとき、この講義を受講した。講義が始まると学生がざわつく。「今、何て言った?」「あの字は何だろう」。講義内容も高度で難解であった。その講義の後で友人数人と学食で食事をとりながらの雑談。「今日も講義内容が分からないのでつまらない。」と講義に対する批判。そんなとき、友人の一人が、「あれは、最近の新発見を解説したもので、すごく面白い。」と発言。理解できて、面白いと感じる学生がいたことに私を含め他の学生は衝撃を受け、それ以降、分からないことがあると、専門書の揃った大学の図書館(学部附属図書館)に行き調べるようになった。それが、大学の図書館との出会い。難解な講義を学生の努力で理解した古き良き時代である。

4年生で研究室に配属になり、卒論テーマは「昆虫フェロモンの有機合成」。先輩の手ほどきで関係する科学論文を読み、引用文献を調べるために、図書館に行く。大学院での研究内容は「植物ホルモンの生合成」。毎月1回、図書館に行き、研究室で定期購読していない科学雑誌の最新号を調べ、関係する論文を探す。

鳥取大学に着任してから、カビのつくる物質の化学構造、生合成の研究を始めた。これまで報告されていない(新規な)物質の化学構造を決めて科学雑誌で報告した。実験により物質の化学構造が決まると、論文執筆の前に必ず大学図書館のケミカルアブストラクト(CA)の書架のある部屋に1日こもる。分子式と化学構造名でCAのページをめくりながら、その化学構造の物質がこれまで報告されていないかをドキドキしながら確認する。タッチの差で負け、がっかりしたこともあった。そういった確認作業も、この頃では化学構造式を描いてSciFinderで検索すると自室にいながらにして一瞬で済むようになっている。あっという間に結果がでて、ドキドキ感も一瞬で終り、少し残念な気もする。

記事中で紹介された電子リソース

ご利用の詳細やその他の電子リソースについては、附属図書館Webサイトにてご確認ください。
<https://www.lib.tottori-u.ac.jp/>



CAS SciFinder[®]

化学を中心とする医薬、生化学、物理等の科学情報に関する検索サービス。
<https://scifinder-n.cas.org/>

研究は出会いの積み重ね。

それが人生を面白くする。

それを支えているのが大学図書館。

また、論文を書くとき、関連のある論文をできるだけ集めて引用するようにしていたが、手作業で検索していると、どうしても引用漏れがある。投稿後、レビュワーから、こんな関連の深い論文があるので引用するようにと指摘されたこともあった。こちらについてもWeb of Scienceなどでキーワード検索することで漏れもなくなったが、その分、近頃の多くの論文の引用文献の数が昔に比べて極端に増えているのが気になるところである。

他の研究者の投稿論文のレビューをすると、その論文の引用文献を読まないと内容の理解が進まないときがある。そんなときに、昔は、図書館に足を運び引用文献を探しに行ったが、自室にいて図書館の電子ジャーナルの論文を探しダウンロードして読むことができるようになった。仕事が早くなりとても便利である。電子ジャーナルでどんな論文でも読めるかという、そうはいかない。契約の問題で登録されていない科学雑誌があり、その掲載論文は個人でダウンロードせざるをえず、お金もかかる。そこで見たい論文の複写を、図書館を通して学外に依頼したりする。そ

の方が安く上がる一方で、時間がかかり、フラストレーションがたまる。便利さとは先立つものがあるからこそ成り立つものと実感する。ちなみに、SciFinder、Web of Science、電子ジャーナルは大学図書館が提供するサービスの一部である。

30年あまり、鳥取大学で研究をやってきて、いろいろなカビと出会い、70種以上のさまざまな新規な化合物と出会うことができた。同時に、それらの研究と一緒に進めた鳥取大学の研究室の学生達や学内外の共同研究者達、関連したカビや化合物を通しての多くの人との出会いもあり、充実した教員生活であった。

かように私の人生にとって学部生時代の勉強、大学院生時代の研究、そして教員時代の研究を支えてくれたのが図書館であった。これからも、大学図書館が大学における学生や教員の教育、研究を支える中心となり、社会の状況に応じてさらに発展することを心より期待する。



Web of Science

世界の主要学術雑誌に掲載された論文等を検索できるデータベース。
<https://www.webofknowledge.com/>



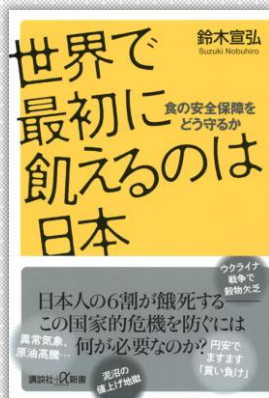
電子ジャーナル

鳥取大学で利用できる(有償契約もしくは無料公開)電子ジャーナルタイトルは、電子ジャーナルリストで検索可能。
<https://sfx2.usaco.co.jp/tul/aZ>





私の選んだこの一冊



世界で最初に飢えるのは日本 食の安全保障をどう守るか

鈴木宣弘 著. 講談社, 2022 / ISBN: 9784065301739

中央図書館 所蔵準備中

衝撃的な表題である。大学教授らしからぬややセンセーショナルに過ぎる表題は、冒頭に記された以下の危機感から付けられたようである。

「国際物流停止による世界の餓死者が日本に集中する」という衝撃的な研究成果を朝日新聞が報じた。米国ラトガース大学の研究者らが、局地的な核戦争が勃発した場合、直接的な被爆による死者は2700万人だが、「核の冬」による食料生産の減少と物流停止による2年後の餓死者は、食料自給率の低い日本に集中し、世界全体で2億5500万人の餓死者のうち、約3割の7200万人が日本の餓死者と推定した。

穀物自給率、とりわけ飼料の自給率が先進国最低水準であることを危惧する声は以前からあったものの、一昨年までは穀物の国際価格がリーマンショック前後を除いては低位で安定し、かつ円が高く、国際情勢が比較的安定していたため、そのリスクが現実化することがなかった。しかしながら、昨年来、ロシアのウクライナ侵略により穀物輸出大国ウクライナからの輸出が一時停止したことを契機として穀物の国際価格が高騰し、それに加えて円安がかつてなく進行したため、多くを輸入に頼っている小麦や食用油の価格が高騰している。中でも、生産費用に占める輸入飼料の割合の高い（酪農を含む）畜産業は大打撃を受けている。畜産クラスター事業という補助金で牛乳増産を進めつつ、いざ牛乳余りが発生すると乳製品の輸入を続けながら乳牛の処分に補助金をつけるという農政の迷走ぶりも厳しく批判している。本書はそのような現状にいま一度警鐘を鳴らすとともに、「国内の食料・農業を守るこそが防衛の要、安全保障」と自給率の向上を訴えている。

1958年前後の有名大学名誉教授や大新聞による非科学的な小麦食礼賛、洋食推進運動など自給率低下をもたらした歴史的経緯にも詳しく触れ、とりわけアメリカの食料戦略に屈

し、「今だけ、カネだけ、自分だけ」の新自由主義に取り憑かれた歴代政権の責任を問うている。農水省出身である著者は、農水省の地位低下と人事権の内閣府への集中によりTPP締結に同省が反対できなくなった経緯やジャガイモの輸入自由化をめぐる攻防が赤裸々に述べられている。ジャガイモは核の冬の下でも栽培できる可能性の高い、食料安全保障上きわめて重要な作物である。

さらに、日本の農家が過保護されている、との俗説に対し、日本の農産物関税率や農業所得に占める補助金の割合がヨーロッパ諸国の半分程度であり、アメリカこそ巨額の輸出補助金で低価格を演出していると反駁している。現在、カロリーベース自給率は37%あるが、肥料や種子（養鶏であればヒナ）の自給率を考慮した「真のカロリー自給率」は11%に留まると警鐘を鳴らしている。植物栄養学の祖であるリービヒが江戸時代の日本の食糧自給を可能ならしめた排泄物の農地還元を理解していたことを挙げ、それを通じた肥料の自給率向上を唱えている。

水不足や土壌劣化、リンの枯渇など世界の食料増産を阻む諸問題を詳述し、仮に「有事」が起こらなかったとしても海外に依存し続けることの長期的リスクが高いと論じている。

温暖化効果の高いメタン排出削減や穀物生産に伴うCO2排出削減のため、畜産を段階的に縮小し、豆乳、大豆ミート、代替卵などに消費をシフトしてゆく必要があり、その方が自給率も高まるはずであるが、その移行を畜産農家の所得を保障しながらいかに進めるのか、また、核の冬にいかに備えるのか、これらの難題についての著者の今後の研究と著作に期待したい。

藤巻 晴行
(ふじまき はるゆき)
乾燥地研究センター 教授



附属図書館委員会委員の先生方に
おすすめの本をご紹介します



ブータン、これでいいのだ

御手洗瑞子 著. 新潮社, 2012 / ISBN: 9784103320111

中央図書館 人間力関係図書. 302.258/But
医学図書館. 302.25/Mit

読書の楽しみの一つは、自分にはできない経験、自分の全く知らない世界を、書かれたものを通して（間接的に）見聞できるところにあります。そういう意味で、何年前かにふと手に取ったこの本「ブータン、これでいいのだ」を取り上げてみようと思います。読んだ当時（今もそうですが）、特別な目的やブータンに関する知識があったわけではなく、この本は私にとってちょっとした「偶然の出会い」でした。

ブータンはインド・中国双方と国境を接するヒマラヤの小国で、外務省のウェブサイトの資料によれば、面積は九州と同じくらい、人口は約77万9千人、議会制民主主義に基づく立憲君主制をとっています。国民総幸福量（GNH：Gross National Happiness）という概念を創り出し、GNHを高めることを目指すという独自の方針を掲げていることが知られていますが、著者は2010年9月から1年間、ブータン政府のGNHコミッションで首相フェローをつとめました。この本ではその時の著者の貴重な経験を基に、日々の仕事や生活における異文化との遭遇が生き生きと描かれています。そしてそれらに対する、ブータン政府で働く公務員としての冷静な観察や分析も述べられています。

内容をみてみましょう。著者がブータンで働くことになった経緯などは本書の冒頭に書かれていますが、続く第2章でブータン王国の概要がまとめられています。地理、国の規模、言語などの基本事項、ブータンを理解する上で重要なブータン王室。さらに「番外編」として王室、祭り、民族衣装、人々の暮らしが美しい写真とともに紹介されています。

第3章以降でGNHコミッションの仕事や日常生活での経験を通じて著者が知った（2010年頃の）ブータン社会の実情や人々の考え方・価値観が紹介されています。ブータンの人々の、一般的な日本人とは大きく異なる時間の認識の

仕方、「人の力の及ぶ範囲／及ばない範囲」に対する考え方、人々のプライドの高さ、社会における男性・女性の立場、コミュニティや家族の絆、信仰に基づいた生や死に対する考え方、さらに、世界との関わりによる環境の大きな変化を人々がどのように受け止め行動しているか、GNHの一要素として重要な、経済の発展を促すための政策、インドや中国との関係などが取り上げられています。そして、著者はこれらの環境、文化、経済、政治の条件や影響の下で自信をもって生きる人々に注目し、ブータン社会の特徴を独自の観点で分析しまとめています。最後にブータンの人々にとっての「幸せ」とは何か、という根本の問題に立ち返って本書は締めくくられています。

ここで紹介された価値観や考え方はそのままどこにでも当てはまるものではありませんが、与えられた環境や視点が違えばこんな結論もある、というように、改めて「考える材料」を数多く提供してくれます。とても興味深い一冊だと思います。

井上 順子
（いのうえ じゅんこ）
教育支援・国際交流推進機構 教授



本の学校文化祭

参加レポート

2022年11月6日（日）、NPO法人本の学校 (<https://www.honnogakko.or.jp/>) のNPO法人化10周年を記念して、「本の学校文化祭」（以下、文化祭）が開催された。この文化祭に実行委員として関わったので、開催までの経緯や当日の様子などを記しておきたい。また、筆者が主担当した分科会については少し詳しく記録を残しておきたい。

1. 実行委員会

第1回実行委員会は、2022年5月27日、鳥取県立図書館小林館長およびNPO法人本の学校前田副理事長の呼びかけで集まった鳥取県内の書店、図書館関係者等十数名でオンライン会議を開催した。図書館関係者の一人として筆者も末席に名を連ねた。

委員会では、NPO法人10周年にあたって、本や出版に関する記念行事を行うこと、会場（「みなとテラス」境港市民交流センター）、大体の開催時期（11月or12月）を決め、行事内容等については次回以降の委員会で各委員の提案をもとに決めていくこととした。

以後、第2回（6/9）、第3回（6/23）、第4回（7

/14）、第5回（8/4）、第6回（9/8）、第7回（10/8）と会を重ね、日時、会場、行事内容をFIXしていった。

また、8/26および10/24の2回、会場の下見を兼ねた「みなとテラス」での現地調整打合せを実施した。

2. 会場

2022年7月にオープンし、リニューアル境港市民図書館が中核施設として入り、大ホールや各種会議室が整備された市民交流複合施設である「みなとテラス」境港市民交流センターが文化祭会場として相応しいとなり、同市民ホールにて講演会、同各会議室で分科会、図書館に於いて展示を行うこととなった。

3. 開催日時

準備にとれる時間を十分に確保でき、年末ぎりぎりではなく、関係者の他の行事と重ならない時期で、なおかつ「みなとテラス」に他の利用予約が入っていない休日ということで、11月6日（日）と決定した。

（表）分科会一覧

No.	分科会
1ーア	本に関わる仕事をしたい皆さんへ(前編) ～「夢」をかなえた業界の人が語るトークセッション～
2ーア	本に関わる仕事をしたい皆さんへ(後編) ～「夢」をかなえた業界の人が語るトークセッション～
1ーイ	工作教室「どんぐりころちゃん人形を作ろう」 &世界を旅するおはなし会
2ーイ	大好きな本をすすめよう！本屋さんの手書きPOP講座
1ーウ	境港の偉人探し
2ーウ	皆藤黒助さんを囲んで読書会講座
1ーエ	見えない見えにくい人の読書環境に触れてみよう！
2ーエ	本の魅力を伝えよう！ 「上映ブックトレイラー受賞作品」&「決戦！ビブリオバトル」
1ーオ	「ポプラディア」と『MottoSokka!』で考える ～紙とデジタルはどこが違う？
2ーオ	本でおしゃべりしよう！ ～ブックワールドカフェ@みなとテラス～

NPO 法人本の学校設立 10 周年記念

本の学校文化祭

In 境港市民交流センターみなとテラス 大ホールほか
every book its reader

2022. 11.6 SUN
10:00～16:45
会場:境港市民交流センター みなとテラス (境港市上道町 3000)

分科会

10の分科会 詳細は中略

1ーア 本に関わる仕事をしたい皆さんへ(前編)
2ーア 本に関わる仕事をしたい皆さんへ(後編)
1ーイ 工作教室「どんぐりころちゃん人形を作ろう」
2ーイ 大好きな本をすすめよう！本屋さんの手書きPOP講座
1ーウ 境港の偉人探し
2ーウ 皆藤黒助さんを囲んで読書会
1ーエ 見えない見えにくい人の読書環境に触れてみよう！
2ーエ 本の魅力を伝えよう！「上映ブックトレイラー受賞作品」&「決戦！ビブリオバトル」
1ーオ ポプラディアと『MottoSokka!』で考える～紙とデジタルはどこが違う？
2ーオ 本でおしゃべりしよう！ブックワールドカフェ@みなとテラス～

金田一秀穂氏 記念講演
金田一先生の日本へ受けたい授業ー図書館は星の見える場所

タイムスケジュール
10:00 開会行事
10:10 記念講演
13:00 分科会1
15:00 分科会2
16:45 終了

主催 NPO 法人本の学校設立 10 周年記念 本の学校文化祭実行委員会
TEL: 0859-31-5001 E-mail: info@honnogakko.or.jp

2022年11月6日(日)、NPO法人本の学校 設立10周年記念事業「本の学校文化祭」が開催されました。鳥取県内の書店、図書館、読書活動等関係者が中心となって、本に関わる様々なイベントが実施され、鳥取大学附属図書館からも職員が実行委員・登壇者として参画しました。本特集では、その企画から当日の様子まで、参画した職員の視点からレポートします。

4. 文化祭概要

記念講演（午前）と分科会（午後）および図書展示の形式で開催された。

記念講演は、山梨県立図書館長でもあり、テレビなどのメディアにも多く出演されている金田一秀穂氏に、「金田一先生の日本一受けたい授業 -図書館は屋根のある広場-」と題して、本のこと、図書館のこと、そしてご専門の言葉について語っていただいた。定員400名の会場がほぼ埋まり大盛況の講演会となった。

分科会（p.05（表））は、子供から大人まで、また図書館員や書店員向けなど対象も様々な盛沢山の内容となり、幅広い市民の参加があった。各分科会の概要については、本の学校webサイトの特設ページ（<https://www.honnogakko.or.jp/archives/1704>）を参照されたい。

図書展示は、境港市民図書館内の書棚を借り、文化祭関係者を主に多数の方々の推薦本を各一棚展示する一棚図書館を実施した。講演された金田一先生の一棚も開設され、図書館利用者、文化祭参加者の好評を博した。

5. 分科会（トークイベント：本に関わる仕事をしたい皆さんへ～「夢」をかなえた業界の人が語るトークセッション～ 前編・後編）

前述した分科会のうち本分科会は、筆者が提案して行うことになった分科会であるので、少し詳しく記しておくたい。

本分科会は、出版社、書店、図書館等の本に関わる仕事に就いている方々に、その仕事の内容、やりがい、難しさなど様々な体験を語ってもらい、さらには同業異種間のディスカッションを通して若い人向けの就職ガイドの役目を果たすべく企画したものである。

講師は、実行委員会からの推薦を基に依頼し、

- 岸本佳奈氏（琴浦町図書館司書）
- 佛坂美香子氏（鳥取県立境高等学校司書）
- 山田裕果氏（鳥取大学附属図書館医学図書館）
- 阿部義弘氏（書店「一月と六月」店主）
- 鳥 秀佳氏（今井出版（今井印刷）代表）
- 齋木小太郎氏（ポプラ社こどもの学び研究所主席研究員）

と、図書館組は若手・中堅層、出版社・書店組は比較的ベテラン層の多彩な布陣となった。



NPO法人本の学校 設立10周年記念 本の学校文化祭

日時：2022年11月6日(日) 10:00～16:45

会場：境港市民交流センターみなとテラス

主催：NPO法人本の学校設立10周年記念 本の学校文化祭実行委員会

共催：鳥取県立図書館、境港市民図書館

後援：鳥取県図書館協会、鳥取県公共図書館協議会、鳥取県学校図書館協議会、鳥取県大学等連絡協議会、鳥取県書店商業組合、今井書店グループ

分科会の進行は、前編で各人の語り、後編で会場も交えたディスカッションと二部構成とした。

前編は、各講師に予め依頼していた事項（略歴、仕事内容、なぜこの職を選んだか、必要な資格や関連する学問、どんな修行を積んだか、実際に今の職に就いて思うこと、同じ道を目指す人へのアドバイス、その他語りたいこと）についてパワーポイントスライドを用意してもらい、投影しながら語っていただいた。

後編のディスカッションは、筆者がモデレータ役をつとめ、会場からの質問票をもとに、各位、「業界」についての酸いも甘いも本音の話を語っていただいた。参加者には、同業異種ディスカッションの醍醐味が堪能できたのではないかと考えている。

また、前編・後編通しての各位の「語り」はどれをとっても講師の人柄がにじみ出てくる興味深いもので、また、精神論だけでなく具体的なテクニカルな話もあり、若い人向けの就職案内としての役目も充分果たしたのではないかと考えている。

講師各位に感謝すると共に、実行委員として本分科会の企画に関わるだけでなく当日の司会進行役も担当した鳥取県立図書館の三田祐子氏、他の分科会

（本の魅力を伝えよう！「上映ブックトレイラー受賞作品」&「決戦！ビブリオバトル」）登壇者でありながら本分科会の会場スタッフとしても尽力してくれた弊館職員の中谷昇主任、ほか個人名は挙げないが実行委員各位、会場スタッフ各位、分科会参加者各位にお礼を申し上げる。

6. 最後に

人口最小の県で、書店・出版文化育成、図書館（館）の普及推進、読書推進といった「本」に関わる文化的取り組みとそれを支える強固な市民基盤があることに、たまたま「通りすがり」で関わらせていただいた他県民にすぎない筆者は、ある種の驚きと若干の嫉妬を覚えた。そして、それは今や羨望とすらなっている。このような文化的基盤を鳥取県の皆さんは誉れとして、今後も絶やさずに発展させていかれることを、僭越ながら、強く願っている次第である。

橋本 敬三（はしもと けいぞう）
図書館情報課長



鳥取大学みらい基金の助成により 個人ブースを設置

鳥取大学みらい基金の助成により、附属図書館へ新たに個人学修等に活用できるブースを導入しました。

中央図書館に防音ブース1台とワークブース4台、医学図書館に防音ブース2台を設置しています。防音ブースは換気機能を備えた密閉型の個室、ワークブースは遮音壁に囲まれた半開放型の作業スペースとなっており、どちらも外部接続用ディスプレイを備えています。防音ブース、ワークブースともカウンターにてご利用のお申し込みが可能です。防音ブース、ワークブースともカウンターにてご利用のお申し込みが可能です。防音ブースは附属図書館WebサイトのMyLibraryから利用予約をすることもできます（利用の30日前から受付）。

より集中して学修したい時などはもちろん、オンラインでの授業や会議、面接等にもご活用いただけますので、ぜひご利用ください。



施設名	予約受付期間	予約・利用方法
防音ブース 中央図書館 1台 医学図書館 2台	利用30日前から30分前まで	<ul style="list-style-type: none"> MyLibrary にログインし「施設予約」からお申し込み下さい。 利用30分前以降は中央図書館または医学図書館カウンターにてお申し込みください。 利用開始時には中央図書館または医学図書館カウンターにお越しください。
ワークブース 中央図書館 4台	利用時	<ul style="list-style-type: none"> ご利用希望時に中央図書館カウンターにてお申し込みください。

「全国大学ビブリオバトル2022 地区予選@鳥大」を開催

2022年10月24日、鳥取大学附属図書館のラーニングコモンズ内で「全国大学ビブリオバトル2022 地区予選@鳥大」を開催しました。附属図書館と学生図書館ワーキンググループが協働し、3年ぶりの対面でのビブリオバトルとなりました。また「全国大学ビブリオバトル2022」の地区予選としても位置付けられ、のちに続く地区決戦への切符を賭けた戦いでもありました。

地域学部・工学部・農学部のそれぞれから計5名のバトルーが出演し、バラエティに富んだ本の数々が紹介されました。このうち、地域学部の学生が紹介した『犯人選挙（深水黎一郎著、講談社、2019）』がチャンプ本に選ばれ、同学生が全国大学ビブリオバトル2022の地区決戦へ出場しました。惜しくも本選には届きませんでした。いずれも白熱したバトルとなりました。



紹介された本



僕を明日を照らして

瀬尾まいこ著
筑摩書房, 2010
ISBN: 9784480804259

中央図書館 開架
913.6/Seo



ひとり旅日和

秋川滝美著
KADOKAWA, 2019
ISBN: 9784041085530

中央図書館 開架
913.6/Aki



君のクイズ

小川哲著
朝日新聞出版, 2022
ISBN: 9784022518378

中央図書館 開架
913.6/Oga



犯人選挙

深水黎一郎著
講談社, 2019
ISBN: 9784065165578

中央図書館 開架
913.6/Fuk



キケン

有川浩著
新潮社, 2010
ISBN: 9784103018728

中央図書館 開架
913.6/Ari 他

電子ジャーナル選定のためのアンケートを実施

本学の教職員・大学院生等を対象に、教育・研究を行う上で必要不可欠な学術雑誌を選定するためのエビデンスを収集する目的で、アンケートを実施しました。

鳥取大学では年間約1億5千万円を電子ジャーナルのパッケージ契約に費やして参りました。しかし、恒常的な電子ジャーナルの価格高騰に加え昨今の円安により、電子ジャーナルの購読に係る全学経費の確保がいよいよ難しい状況となってきております。このため、幾つかの大学のようにジャーナル契約料の上限を定める、パッケージ契約を見直す（個別契約に転換）など新たな対応を行う必要が生じております。本アンケートは、この新たな対応を検討するための全学調査であり、今後の電子ジャーナルの購読契約に係る必要性と財源（全学経費）の措置の最も重要なエビデンスとなります。

このような趣旨の下、2023年3月31日までアンケートを実施しました。ご協力いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。

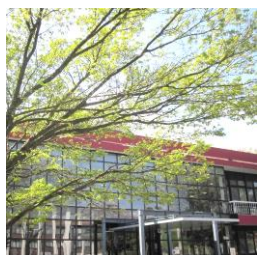
附属図書館においては、頂いたご意見を精査し、本学の教育・研究に資するためにふさわしいコレクションをどのように構築していくか、引き続き検討してまいります。

本学が契約する主要な電子ジャーナルパッケージ提供元(出版社等)と利用できるタイトル数

提供元（出版社等）	タイトル数
Elsevier	2,289
Springer-Nature	1,556
American Chemical Society（ACS）	68
Science	1
Oxford University Press	295

館内展示の様子





編集・発行

鳥取大学附属図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地

 <https://www.lib.tottori-u.ac.jp/index.html>

 <https://www.facebook.com/TottoriUnivLib>

 https://twitter.com/TottoriU_Lib